

鳥獣被害を地域ぐるみで防ぐ

地域で起きている鳥獣被害に対して、田畑や里山を自らの手で守ろうと立ち上がった人や団体の活動を紹介します。活動の様子や、やりがいについて聞きました。

くまもと☆農家ハンター

他人事ではなく自分事として

平 成28年に「地域と畑は自分たちで守る」をテーマとして、田畑を荒らすイノシシを駆除することを目的に、くまもと☆農家ハンターを立ち上げました。きっかけは私の母が「農業をやめようと思う」と話したことです。数年前から深刻になっていた、イノシシによるミカンの被害を受けての言葉で、これまで他人事だったことが一気に自分事を感じた出来事でした。立ち上げ時から「学ぶ、守る、捕る」をテーマに県内の高校や被害に悩む地域へ出向き、現地での実践などを通し、対策の有効性を訴えてきました。



プロジェクトリーダー
稲葉 達也さん
(宇城市)

令和3年からは新たに、獣×農×島(ケモノノシマ)を始めました。これは、命の尊さ、自然の美しさを体験できる「ジビエツーリズム」で「ここにしかない本物の体験」を子ども向けに提供しています。活動を始めて6年が過ぎました。今後も各地域の模範となる若手リーダーの育成や、新たな取り組みにも積極的に挑戦していきたいです。



狩猟技術向上研修で高校生にわなの設置方法を指導する稲葉さん

熊本県立芦北高等学校

私たちの山や畑は私たちが守る

芦 北高校の鏡山演習林では、シカによる樹木被害が深刻化しているため、個体数の調整や鳥獣が近寄らない方法を模索しています。

10月に開かれた狩猟技術向上研修で鳥獣被害が他人事でないということを感じました。本校の農場では、イノシシによる収穫直前の稲や野菜の被害、デコポンを栽培している果樹園にはシカの被害も見られました。さらに、車や列車などの事故も増えていることも初めて知りました。



講習会で講師を務めた稲葉さんの話を真剣に聞く生徒たち

するために、農家ハンターを結成。「私たちの畑は、私たちが守る」をスローガンに、捕獲したイノシシをジビエなどに利用されています。稲葉さんに指導いただきながら、被害の多い場所に箱わな1基とくくりわな2個、通信式カメラを設置しました。2日後に箱わなで4頭のイノシシの捕獲に成功しました。



箱わなを協力して設置。高校の農場まで運ぶだけでも一苦勞

えづけストップで鳥獣被害対策

淵上ライスセンター

水 俣市桜野では、米を中心に作付けをしています。以前からイノシシ被害があり、電柵を設置し対処してきましたが、防ぐことができず、地域で頭を悩ませていました。

そこで取り組んだのは、相手を知らずです。県の「えづけストップ」の取り組みで、住民が集まってイノシシ対策の専門家を招き、イノシシの特性や電柵の有効な設置方法を学びました。地域として取り組む必要性を感じ、地域の田畑全体を囲えるような大型の電柵を設置。共同購入となりましたが、共通の悩みを抱えていたことや、補助金があったため、理解を得ることができました。

最近では、大型の獣も防ぐことができるよう、より強力な電圧に変更。しかし、電柵も草が伸び放題では放電し効果を発揮しません。集まりが



代表
淵上 弥生さん
(水俣市)

あったときなどに草木の管理をするよう、住民同士で声をかけ合います。この他、イノシシのひそみ場の除去や最近増えてきたシカには高い網を設置、猟友会にも捕獲の依頼をするなど対策を取っています。



電柵や網を設置し、被害を軽減

株式会社 DREAM EARTH

自然で育った命を利活用する

自 然環境の変化と向き合い、共生し、できる限り利活用することで、多くの人にイノシシやシカのことを理解してほしい。そんな思いからジビエの加工販売を始めました。

当社では、近隣の処理施設や猟師から、下処理されたシカやイノシシを買い取り、人の食用やペットフードに加工しています。ペットフードは無添加で、愛犬の体にも安心です。ただ、ジビエは自然のものなので、個体差があり、食用として活用できない個体や部位があるのも事実です。ほとんどの処理施設では、ももとロース以外の部分は捨られてしま



同社の解体処理加工施設



カットしたジビエを乾燥させてペットフードに加工します

います。しかし、当社では命を無駄にしないため、高い加工技術を生かして、できる限りいろんな形で提供してきました。

おいしくて安全なジビエを提供するため、誰がいつ捕獲したのかを記録して個体を識別したり、捕獲状態が悪いものは使わないなど、徹底した品質管理を行っています。



企画営業
吉永 美香さん
(八代市)